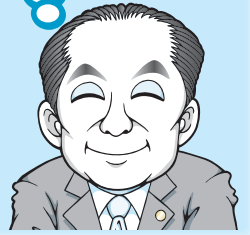


町長の一言



今年の桜

今年の桜は近年になく花つきが良く、枝一杯に花を咲かせました。

四月八日の薬師寺の花

祭りには満開を迎えていたので、見事な花の下でのお祭りになると思っていたところ、あいにくの風雨となつてしまいました。それでも散らずに、例年よりも長い期間、石塚小学校前のライトアップの桜同様、満開状態で楽しませてくれました。

四月中旬に白河の関あたりまで出掛ける機会がありました。丁度八分咲きで、いずれの桜も良い花が咲いていました。桜の花は、寒さの蓄積が十分にされると、暖かくなつてから一気に開くという事で冬の寒さの状

態に左右されると言われており、ああ、今年の冬は寒さが続いたせいだと得心しました。

地球温暖化が進んでいるとも言われております。日本は春夏秋冬がはっきりしておりますが、温暖化が進んで、季節が曖昧になってしまつたら、桜の花などはまばらで、いつ咲いたのかと思うような時代が来ないとも限らないと思います。

私たちの日常生活の中でも、フロンや二酸化炭素等の温室効果ガスの削減につながる省エネ、省資源に取り組んで、冬の寒さに耐えてパツと咲く桜をいつまでも見続けて行きたいものです。

文芸しるさと

俳句



乾田を耕す春の土ぼこり 山崎 正行
 耕して蛙起こしてしまひけり 飯田 勇一
 弁天堂の掃き清められ風花すいそべきよ 仲田 まちゑ
 蓬餅ひさびさに大家族なり 竹内 幸子
 おろし立ての足長ジーンズ梅の風 田所 厚子
 三極の花咲き空を塞ぐなり 森 静江
 白木蓮暗き客間に活けにけり 高橋 芦江
 花植せせらぎぞひに歩きけり 鯉淵 寿美恵
 筍の向きそれぞれに置かれあり 飯村 愛子
 梅咲くを待つだけであり雨の夜 今瀬 多代美
 蝶生まれ大学の門くぐりけり 飯村 昭子
 桜貝拾ひて母のネックレス 瀬谷 博子
 窓開く五年三組チューリップ 岩下 金司
 馬鈴薯植う八十路の介護予防かな 田口 勝元
 山桜咲いて里山生さかえり 富田 多蔵
 腰反らし天を仰げば初燕

短歌



盛り上がる東京マラソンサポートの依頼にソウルより息ら上京す 秋山 愛子

店先を黄の色帽子が埋づめて春いつばいを告ぐる菜の花 大森 久子

煎り豆の香りの中に身を置きて鬼やらう豆のつ、み整えゆく 佐川 あや

敵として恥じざる名の汝と当選を競ふオバマ氏とクリントン氏と 杉山 みちこ

この年の幸せ呼ぶべし降る雪は節分祭の寺に清しも 宮本 ふみ江

疾風の音きこゆるひと日仰ぎ見る大空の白雲は泰然自若 所 美恵子

しみじみと心に響く除夜の鐘「諸行無常諸行無常」と聞こゆ 青柳 京子

「長き世をありがたう」とてくり返す顔を拭きやりぬ永遠の別れに 山形 式妙

立春の空の藍色こぼれきて日だまりに咲けり犬のふぐりは 渡辺 千紗子

病窓よりはるかに見える山なみを眺めて一人故郷を偲ばむ 阿良山 ウメノ

孫と打つバドミントンも軽やかに梅香りくる日だまりの中 岩下 通子

少子化のピッカピカの一年生桜花が笑みて黄帽に舞えり 仲田 こう

やわらかな梅の香匂う朝まだきうぐいすの声清かにきこゆ 鶴田 すが

ネズミ増え家に貫われ猫のミエ私の友となつて仕える 富田 鉄子

観梅に行きて楽しむ公園の好文亭で昔を偲ぶ 岩下 美知野

しろさと誌に飛びこんだ我が恩師四十年目の邂逅のごとく 羽石 栄子

春来たど待ちに待ちたるチューリップ弥生の空に香り咲きつる 市川 義子

突然にポリの袋が舞いあがり春一番に遊ばされおり 枝 不美

義理を欠き恥をも重ねて励みおる吾がりハビりに春陽ぬくとし 片見 和枝

庭に植えて二十年経し「カタクリ」は野性失はず寄り合ひ咲けり 川上 千代子

サイレンを鳴らしつつ行く救急車回転灯の点滅けわし 島 愛子

黄砂ならむ擦りたる指の跡残る汚れたる車を洗い落とせり 多田 志保子

夫逝きたる家業守ると子らと生くこの世のすみに小さく老いて 坪井 きよ子

人生の読点過ぐる思いにて二〇〇八年歩み出ださむ 萩谷 登喜子

春耕の土黒々と広がれば寄り来て啄む二羽の鶉 富田 佐智子

川柳



夜桜見孫は夜店のだんご見る 青木 新三郎

観梅に行くはづ変り温泉へ 北野 武

クラス会白髪かくしの腕を上げ 永井 英陽

甘口と辛口がある胃腸薬 中島 芳春

人生の苦勞くの字の押し車 山本 隆莊